街道を歩く

伊勢参宮街道：04江戸橋ー岩田橋ー高茶屋

四天王寺（曹洞宗　本尊　大日如来）
天平9年（737）聖徳太子創建という。戦災に遭う。
山門残る。近世藤堂藩の保護受ける。
墓地には信長の母土田御前、藤堂高虎夫人久芳院、藩士、学者の津坂東陽、斉藤拙堂らの墓がある。
境内には平景清の鎧掛の碑、芭蕉の文塚がある。

津城址
城は元亀2年（1571）長野氏の養子となった信長の弟信包が伊勢攻略の拠点として築城。天正8年に五層の天守閣も完成。文禄4年(1595)秀吉の家臣富田知信が入城。関ヶ原合戦で大きな被害受ける。慶長13年(1608)藤堂高虎が今治から伊勢伊賀22万石城主で入城。元和元年（1615)大阪夏の陣の軍功で32万石となり明治維新まで続く。
西南東に武家屋敷配置、南よりの伊勢街道を城下にいれるなど城下を整備、商人の保護政策などで商業を発展させた。

たにがわことすが
谷川士清旧宅（国史跡）
本居宣長と並ぶ伊勢の生んだ国学者
士清は宝永6年（1709)町医者の家に生まれる
京都で医学を学び跡を継ぐ。医業のかたわら
「日本書紀」の注釈書、「日本書紀通証」
国語辞典の先がけの「和訓栞」他を著書
近くに士清を祀った谷川神社、墓のある
福蔵寺がある。
神社境内には著書の下書を納めた”反古塚”
がある。

成就寺（真言宗）
行基、開基。本尊大日如来（鎌倉時代）
本尊が出現した泉の香水を白河法王に
献上したところ法王の病気が治ったこと
から元亀2年（1571)伽藍建立。

清水の不動
奈良時代の高僧、行基が伊勢神宮参詣
の途中この地に来ると洞穴より金色の
大日如来出現、清水が湧き出たという。
成就寺の奥の院。
不動尊は享保元年（1716)に安置。

津宿
伊勢別街道、伊賀街道の分岐点として交通の要衝
城下町として栄えた。宿は北町、東町、大門町、
宿屋町、地頭領町が中心で大門町の千切屋
（現在百五銀行大門支店辺り)が本陣、問屋
であった。

鶴之宮跡
2代藩主高次がこの辺りの原野で
鶴を射止めたことが幸先よいとして
宮を建てたという。

偕楽園
11代藩主藤堂高猷が山林に手をいれ
安政6年（1859)に御山荘として完成
「人々が偕（皆）楽しむ」との意味で
偕楽園と名づける。

津観音（正式名恵日山観音寺）
浅草、大須、に並ぶ3観音のひとつとか
和銅2年（709)阿漕浦で漁夫の網にかかり出現
本尊は聖観世音菩薩。
室町時代には将軍足利義教が勅命を奉じ三重塔
を建立。秀吉は出陣の時祈願。2代将軍秀忠
幕末まで徳川家、藤堂家の祈願所であった。
関ヶ原合戦で焼失。高虎再建。戦災で焼失、再建。

寒松院（天台宗）
歴代津藩主、久居藩主の墓。大きな五輪塔
が並ぶ。藤堂高虎は寛永7年（1630)江戸で
没し上野寛永寺山内の寒松院に葬られる。
2代藩主高次の時、津城下願王寺(昌泉院)
に祀り、寺号を高虎の諡号をとって寒松院
とした。

阿漕塚
謡曲・阿漕、浄瑠璃・阿漕平次
で知られる阿漕平次の霊を祀る。
古来、この辺りは伊勢神宮の贄場で
禁漁区であった。平次は老母の病気に効
くという「やから」を獲りに夜毎網を入れた。
ある時名入りの笠を忘れ、密漁が発覚。
簀巻きにされ阿漕浦に沈められたという。
孝行息子平次の霊を弔うために土地の人
塚を建てたという。塚の側に芭蕉句碑
”月の夜を
何を阿古木に　なく千鳥”

結城神社（祭神　結城宗広）
現在しだれ梅で知られる。結城宗広は
延元3年（1338)義良親王、北畠親房らと共に
東国で再挙を図ろうと伊勢大浜から出港した
が暴風雨に遭い安濃津に漂着、この地で没。
以前は結城塚、結城明神と呼ばれていたが
文政7年（1824)神社となる。

津八幡宮
足利尊氏が千歳山に勧請。
藤堂高次がここに移す。
祭神応神天皇、神功皇后、藤堂高虎

藤方
古代朝廷に納める土器
の生産地。中世ー近世は
製塩が盛んであった

倭姫が遷座地求めて巡幸中立寄る
「一志藤方片樋宮」ともいわれる。